



調査か使えるかの交付金 国の施設留貯の整備に

「活用出来る可能性がある」と県は説明

大谷市議は、雨水貯留施設の整備に国の交付金が活用出来るか、そのためには何が必用か、県の担当から説明を受けました。県は交付金が「活用できる可能性がある」と述べ、「市が取り組むならば協力したい」と述べました。

貯留施設を整備した中城ブランドは約2500千万円の予算、今年予定の大原ブランドは3500万円かける予定です。これには国の補助金は

大谷市議は9月議会でも「交付金活用のために国と具体的に協議をすべき」と指摘。上下水道局長は「(市の雨水貯留施設は)補助対象になってない。活用するには佐賀市のように100年安心プランで莫大な計画と費用が必要」だから「中小都市でも活用できる下水道の補助メニューを国にお願いしている」と答弁。大谷市議は、11日堤栄三共産党大分県議と共に、県の担当から国の交付金事業を活用



左から大谷市議、堤県議、右は県職員

「交付金活用のために国と具体的に協議をすべき」と指摘。上下水道局長は「(市の雨水貯留施設は)補助対象になってない。活用するには佐賀市のように100年安心プランで莫大な計画と費用が必要」だから「中小都市でも活用できる下水道の補助メニューを国にお願いしている」と答弁。大谷市議は、11日堤栄三共産党大分県議と共に、県の担当から国の交付金事業を活用

清流の淀川の仁 高知県の

県の清流保全計画、いの町の取組を視察

市議会水資源特別委員会は高知県清流保全条例と保全計画、いの町の条例や取り組みを視察しました。大谷市議も参加。

仁淀川は全国1級河川水質ランキングで5年連続1位となり「奇跡の清流」と呼ばれています。透明度が高く青く美しいことから仁淀ブルーとしてTV番組でも紹介されました。高知県庁では平成26年に清流保全計画を見直して取り組んで

います。本川や支川の水質は、環境省の基準より厳しくしている平成11年の目標を維持しています。「子どもたちの笑顔を育む仁淀川、人と自然が織りなす清流仁淀川」をキャッチフレーズに流域全体をネットワークで結び、流域が一つになって清流保全に努めています。また関係7市町村長や関係団体を清流保全の推進協議会を立ち上げ、一斉清掃などに取り組んでいます。人口2万3千人のいの町は

高知和紙の特産地です。大小20の工場製紙企業があり工場排水が大きな課題です。排水基準はクリアしていますが濁度や沈殿物をさらに除去するために、河川に浄化装置を設置しています。



排水門のところから流れ出る工場排水を視察